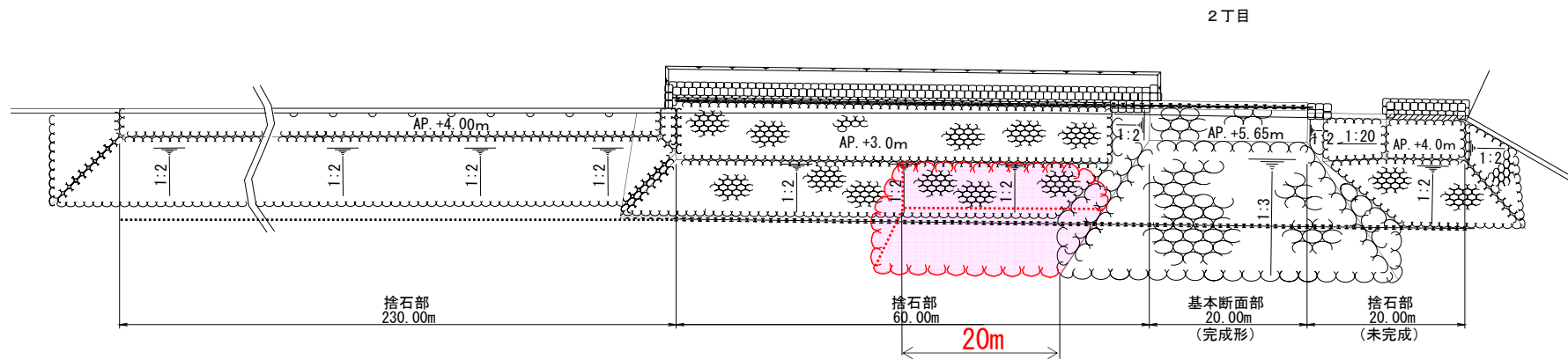


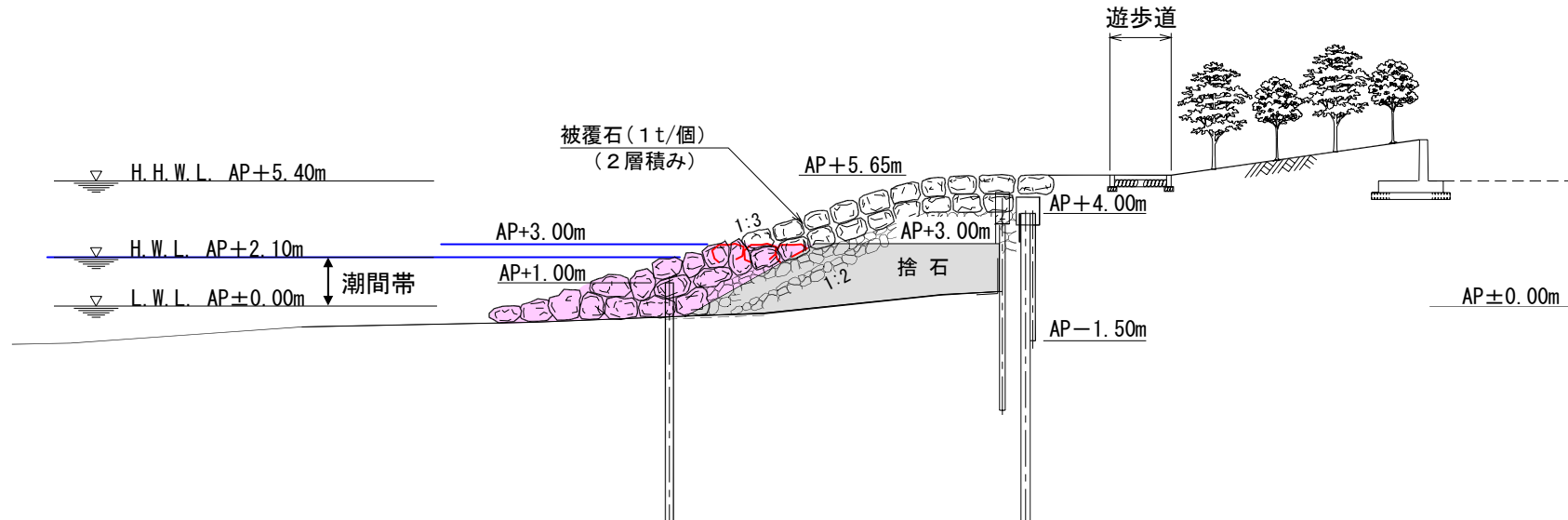
試行案(仮置き工)の配置計画図



計画の主旨と概要

- 潮間帯部の被覆石を乱積みにし、新基本断面に対するモニタリング調査を実施する（生息空間としての隙間の形成状況と生息状況、滑り等に対する凹凸部の効果、自然的な場の形成状況など）。
- 乱積み部分の散乱防止、また、H18施工部分と状況の対比が行えるよう1工区に隣接させる。
- 設置規模は1工区の完成形と同規模として20mとする。

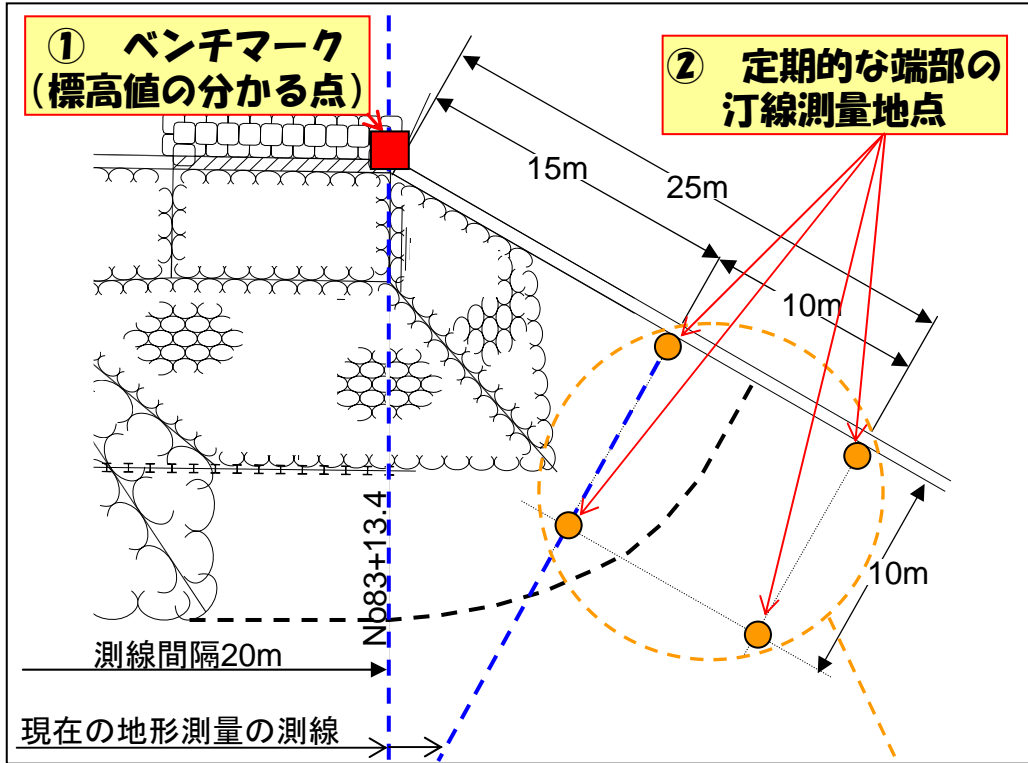
試行案（仮置き工）の断面図



計画の主旨と概要

- 潮間帯部の被覆石を乱積みにし、新基本断面に対するモニタリング調査を実施する（生息空間としての隙間の形成状況と生息状況、滑り等に対する凹凸部の効果、自然的な場の形成状況など）。
- 乱積み部分の散乱防止、また、モニタリング調査の必要最小規の設置とする。
 - ・ 前面の高さは潮間帯頂部、及び波の遡上を考えA.P. +3.0mとする。
 - ・ 後部は断面の散乱防止を図るために仮設道路（A.P. +3.0m）にすりつけた被覆石での単断面とする。

石積み護岸端部の地形変化の把握について

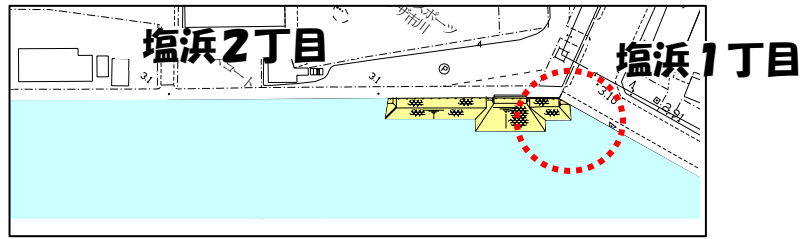


計画の主旨と概要

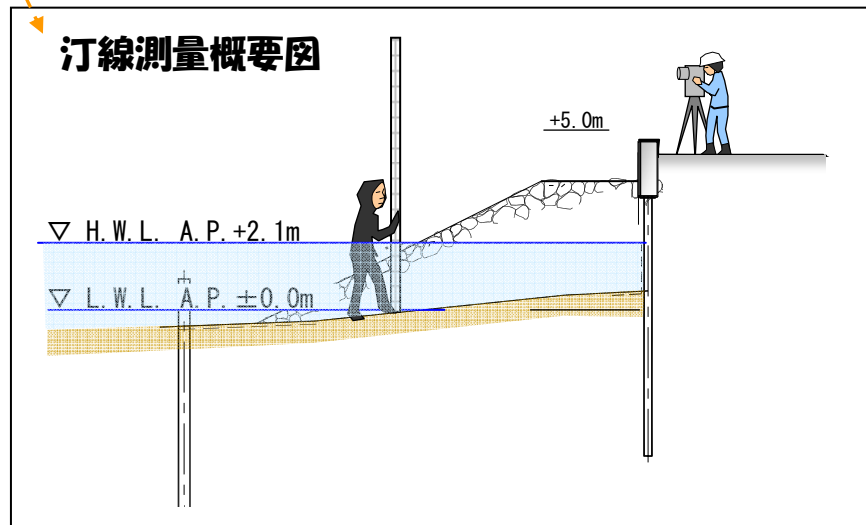
□ 評価委員会からの要望 (隅角部の観測の必要性) に対する提案。

① 既設護岸の隅角部に、高さ (標高) がわかっているベンチマークが設置してある。
このベンチマークの高さを使って、必要に応じて端部の地形を測ることができる。

② 定期的には、春季 (4月) 及び秋季 (9月) のモニタリングにおいて、端部周辺の地形変化を汀線測量にて把握することとする。



位置図



汀線測量概要図